

# 特別対談



日本医師会会長

## 横倉 義武



京都大学特別教授  
免疫科専門医

## 本庶 佑

がん治療法において新たな道を切り開き、今年のノーベル生理学・医学賞を受賞した本庶佑京都大学特別教授。免疫を抑える分子「PD-1」を発見し、がんの画期的な治療につながったことで今回の受賞に至った。基礎医学の道を歩み続けてきた本庶氏と横倉義武日本医師会会長が、基礎医学の現状やこれからの医療について語り合った。

### 基礎医学を 選択しやすい環境に

**横倉** ノーベル生理学・医学賞の受賞、誠にめでたうございます。日本医師会の会員でもある先生が受賞されたことは日本医師会としても誇らしく、うれしく思いました。先生のこの発見により、多くの方々が希望を持つことができたと思っています。

**本庶** 「先生のおかげで命を救われた」といった声を直接お聞きすると、我々がやってきたことに意味があったのだと実感できますし、本当にうれしく思っています。

**本庶** 医学を志す方は好奇心旺盛ですから、基礎医学、つまり研究をやってみようと思っている人は必ずいる。それでも減っている原因は、今の医学教育が臨床に偏り過ぎていることにあると考えています。学位取得までの期間を短縮するなど、経済的な面も含めてサポート体制を整える必要があるのではないのでしょうか。

**横倉** 基礎医学は臨床を支える重要な学問でもありますし、立派な研究成果を生み出す環境を整備するためにも、医学教育の見直しが必要かもしれませんね。

**本庶** そうですね。横倉会長がそういう声をあげてくださるのなら、私もその実現のために、積極的に援護射撃したいと思っています。

## 医学教育の抜本的な見直しを

医師が多く、無言のプレッシャーがあったということは否認できませんが、自分が意識した時は野口英世の伝記を読んだ時です。その迫力に非常に圧倒されたというか、本当に感動しました。この二つが大きいかなと思います。

自分の志を常に忘れず、いつまでも努力するという意味で、この二つの言葉を大事にしています。

### 支えていただいた 皆さんに感謝

**横倉** 最後に国民の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

**本庶** ノーベル賞を頂くまでに多くの方々と出会い、ご支援を頂きました。国民の皆さんには改めて深く感謝申し上げます。また、地域医

療の現場で働く先生方には、日本の医療水準を世界トップレベルに保つためにも、常に最新の医学を学び、その進歩を取り入れていってほしいです。ぜひ、日本医師会にはそのサポートをお願いします。

**横倉** 引き続き、日本医師会の生涯教育制度等を通じてサポートして参ります。本日は本当にありがとうございました。

先生には、ぜひ、これからもより多くの人々を救うため、日本の基礎医学研究の先頭に立って、後進のご指導等をお願いいたします。

# 世界トップレベルの医療を維持するため

## 常に最新の情報を取り入れて

### かかりつけ医が 果たす役割の重要性

**横倉** 超高齢社会となる中で、日本医師会では「かかりつけ医」の役割がますます重要になると考え、国民にも「かかりつけ医」を持つことを呼びかけています。その点についてはどのように思われますか。

**本庶** 日本医師会が提唱しておられる「かかりつけ医」という考え方は非常に重要で、医療体制の中ではなくてはならないものだと思います。問題は、「かかりつけ医」と

病院との連携が現状では必ずしもうまくいっていないことです。連携とすみ分けをもう少し丁寧にしていかないと、地域医療というのはうまく回っていかないです。日本医師会には連携を密にする役割を期待しています。

**横倉** 日本の薬価制度についてはどのような考えをお持ちですか。

**本庶** 新しい薬の値段が高くなるのは仕方がないと思いますが、効果の薄くなった薬が保険適用のままであることは問題だと思っています。

**本庶** 父親も含めて親族に、

